

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1432号 令和8年8月15日号

福岡県議会事件は何を生むか？	本紙編集部.....	1
習近平政権崩壊の予兆		1
しばらく腎臓移植はブタで.....		2
防衛省に「国際政策局」が誕生		3
盆踊りは世界的祖霊供養		4

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円（年10回発行）
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
編集長／谷 田 透

福岡県議会事件は何を生むか？

本紙編集部

テレビで連日流れている福岡県議会事件のニュースは、議会だけでなく県庁そのものが腐敗していることに全国民が気づいている。さらに各政党もほぼ全てが同じ穴のムジナ状態に陥っていることが露見。もう福岡県に救いは無いようだ。

当初、西日本新聞だけが議員の海外旅行費用をスクープして叩いたところ、数人の議員と関係する会社が新聞社に圧力をかけて記者を黙らせた。驚くほどの圧力に弱い体質なのである。

そのスクープをきっかけに、県議会内で分裂と対立が起きたことでNHKが参入し、全国版の「とんでもニュース」になってしまったのだ。



浦野仁 田川市長

福岡県といえばルール無視の目立ちたがり屋と思っている人は多いだろうが、今年の筑豊地区の田川市長選挙で新人が当選した。今までの「しがらみ選挙」「圧力選挙」ではなく、ネットを主力とした若者に訴求する選挙を展開し、有権者が新しい風に期待を寄せたのである。今までなら、当選直後から利権物語が始まって改革は雲散霧消

したことだろう。

ところが今回は直後に福岡県議会事件が燃え上がり、県全体に「そろそろ福岡も変えにやならんばい」という風が吹き始めた。

福岡県がそもそも自民党も社会党もケンカせずと同じ穴に住んでいたのは、同和利権と無関係ではない。同和利権は法律や規則が変わると一気に吹っ飛ぶものなので、利権構造には圧力組織と代理発言者としての議員が欠かせないのである。

本来の同和救済事業とは何だったか。野中広務が生きていた頃には「部落解放と地域の平均化を実現する為にハードからソフトに進むべきだ」と言っていたが、利権を握っ

ている多くが「エセ同和」であることに悩んでいたようだった。そんな野中も居なくなり、うるさい奴が居なくなつて怖いもの無しになった小悪党らがどのように生きるかは明らかなことだ。

田川市の市民がネット選挙で気づいたように、今度は来年四月の統一地方選挙で全福岡県民が目覚めそうな勢いだ。



習近平は一昨年に軽い脳梗塞で倒れてから、中共内部ではポスト習近平を噂する小さな声が渦巻き始めたらしい。

「政権は銃口から生まれる」と言った毛沢東だったが、その毛沢東と並ぶことが出来たと自画自賛していた習近平は、どうやら銃口を制することが難しいようだ。

中央軍事委員会のナンバー2だった張又俠が習によってクビになり、軍内の太子党も青年団派も疑心暗鬼になっている。習が

「ポスト習近平」「反習派」として名前を挙げた幹部は必ず潰れているからだ。

習が十六歳で下放された時からの「兄弟」として、習がトップになった時にナンバー2として政権を支えた王岐山も、太子党と青年団派の代理戦争の象徴だったのだが、気がつけば表舞台から消えた。「兄弟」と言っているもナンバー2になれば消されるのなら、ポスト習として名前が出てくれば習派の子分たちは必死で消しに来る。

習近平には圧倒的な腕力はすでに無く、長年弟分と呼ばれていた金正恩も平伏しなくなった。

習は七年ぶりに平壤を訪問し、アメリカと日本に敵対するようラップを吹いた。新華社通信は、金正恩が「一つの中国」の原則を堅持して「中国の核心的利益を守る」と約束したと大喜びで世界中に配信した。北朝鮮の労働新聞には習が寄稿して、「覇権主義のアメリカと軍国主義の日本は、地域の安全と安定の敵だ」と煽り立てた。

習が何よりも「中朝友好」に熱心なのは、一つの中国の核心的利益というのが台湾のことだと明らかだからだ。その為には、中国解放軍の戦力だけでは話にならず、北朝鮮の核ミサイルが必要なのだ。



そんな大事な北朝鮮をロシアに横取りされてしまえば、中国は台湾を制圧することは出来なくなる。北朝鮮がウクライナ戦争で蓄積した戦術ノウハウは、台湾との戦争では最も重要になってくるし、台北に平壤からミサイルを撃ち込むことは、広島に原爆が落とされたショックに等しいと考えている。

習が訪朝すれば、北朝鮮が二〇二四年に

憲法改正して「我が国の領土はロシア、中国、韓国を含む」としたことに必ずクレームを入れるに違いない…と世界中が見ていたのにそれも無く、核兵器保有についても言及しなかった。

つまり習は、北朝鮮が核保有国だと認めた上に、中国東北部やロシア沿海州に北朝鮮が進出する可能性を認めるようなウイंकをして見せたことになる。

これを中国解放軍の軍人たちが笑顔で合意してくれる筈がない。無論プーチンも同様だろう。習はそこまで精神的に追い詰められているのだから。

高市政権が急いでいる「新安保体制」を想像できているのは習近平も金正恩も同じで、軽く見ているのがトランプであろう。

中国の軍内でも党内も、台湾有事で平壤がミサイルを発射してくれたら戦争はできるが、韓国や日本が先手を打って金正恩を抑え込めば中国は戦争前から敗北が確定することになる。

そうなれば習政権は崩壊だが、案外それを望んでいるのは中国自身なのかもしれない。

しばしば腎臓移植はブタで…

湘南鎌倉総合病院で二〇二八年に人間に移植する為の腎臓を作る「ブタ」を生産する。今、患者が急増中の重症腎不全で移植する人間の腎臓が不足しているのだ。来年中には同病院と北海道大学病院に「ブタ施設」が作られ、二〇三〇年にはブタから人間への腎臓移植が解禁されることになる。

アメリカのバイオ企業「イージェネシス」が開発した、六十九箇所の遺伝子を改変し

た豚の細胞が元になっているが、拒絶反応もブタ由来のウイルスも心配ないという。

そもそも、腎臓移植のドナーにする為に、中国では貧乏人から「生体腎移植」の腎臓を買い、海外移植にやってくる外国の金持ち等を客にしていた。犯罪者は刑務所内で腎臓の検査を受け、申し込みを受付けている外国の金持ち患者とめでたく適合した場合、軍の病院に移されてドナーになった。

法輪功信者やウィグル独立運動家は全員、移植ドナーの検査をされていたという。

「イージェネシス」が遺伝子改変ブタの細胞を中国に販売したかどうかは不明だ。

中国は数をこなして安全性を高めていく方法だが、日本は安全性を確立してから人



防衛省に「国際政策局」が誕生

高市政権になってから防衛省の組織改編ブームがにぎやかになり、新たに「国際政策局」「防衛基盤局」「施設整備局」「人事教育訓練局」を内局に作り、外局に「退職自衛官及び家族支援庁」が作られることになった。

日本周辺での中国やロシアの軍事活動活発化に対して、日本の安全保障はアメリカだけに頼ることは現実的ではないという意識が拡大しており、ヨーロッパを中心にアジア、オーストラリアなどの同志国と協力して、相互に防衛協調する枠組みを作る時期にきている。

AIや無人兵器を利用する「新しい戦争」が現実のものとなり、日本の防衛省も国際レベルの軍事力と同時に、国際レベルの「防諜システム」が求められている。

日本には防諜法はあっても、日本の役人や軍人を縛るだけのもので、海外のスパイはやりたい放題なのが現状だ。そんな日本を安保協調の枠内に入れようものなら、仲間の情報はダダ漏れになってしまう。

そこで「国際情報局」を発足させて、スパイ防止法を完成させなければ、世界から相



間に臨床実験するという方法なので、実際の移植手術は多少遅れるかもしれない。すでに様々な臨床実験が行われている「iPS細胞」については、脊髄損傷の患者に移植して運動機能や感覚機能の回復を確認できたようで、イギリスの科学誌にも発表されるまでになった。日本の移植医療は、やがて「iPS細胞」の移植だけで患者の回復を約束できるようになるだろう。だが、当面は「ブタ」の腎臓にお世話になるしかないようだ。

手にされなくなると考えたのである。実際に日本では、中国やロシアの外交官身分のスパイ達が気軽に活動しているらしい。国籍で言えば、最も危険なのはアメリカ人ということになる。安心しているせいでアメリカ人にはやられることが多い。

一九七〇年代に勝共連合が音頭をとった「スパイ防止法」は、日米安保を基本として敵か味方かという分類がなされていたが、これからはスパイの定義をはっきりさせて、それら全てに対応できるインテリジェンス部門を作る必要がある。外国勢力全般に対するインテリジェンスが重要になってくるが、これは受け身の情報収集分析という公安感覚を超えた「国際諜報活動」になるだろう。現代の「中野学校」と考えても良い。

インテリジェンスに反対する立場の人たちは、「表現の自由」「通信の秘密」などの憲法上の自由と権利の条文を持ち出して異を唱えるが、国際社会と個人の比重を言うのではなく、「内心は自由であるが行動には責任が伴う」という原則を覚えておかねばならない。

内心は洗脳や信仰でなければ縛れないが、表に現れる行動は客観的に見えるものだ。

身分を偽って機密情報を盗み出したり、規制があるような精密部品を密輸したりするのはスパイであり、世界的には逮捕される対象なのである。

だが、そのスパイ行為が必要となってくる安保上の場面は各国の事情として存在す

盆踊りは世界的祖霊供養

外務省の青年海外協力隊でアフリカヘダムの測量に行っていた人から聞いたのだが、アフリカでは村で夜に焚き火を囲んで先祖の霊を招いて飲食したり踊ったりする行事があるそう。これはアメリカのインディアンと呼ばれた種族の中にも共通しているそう。

我が国では、平安時代が終わって京や畿内には疫病や災害が増加し、貧乏人が大勢死亡する不幸が続くと、民衆の手に取り戻した仏教の力を使って先祖の霊を招いて心を鎮めようと「踊り念仏」などが空也上人や一遍上人によって広められた。踊り念仏とは、南無阿弥陀仏と唱えながら輪になつて踊る行事である。

徳島の盆踊りと言えば、誰もが知っている阿波踊りである。これも念仏踊りに起源を持つ盆行事だが、江戸時代に阿波の藍染めが江戸で人気を博して、藍屋に旦那衆が誕生するほど裕福になった。その頃、お盆の十三日に先祖迎えの行事をして、十五日に先祖送りをする行事が定着した。

お盆の三日間は旦那衆が行事をしているので色街は休業になった。日銭で暮らしている芸者や幫間（たいこもち）が可哀想だと言うので、旦那衆は金を出し合つて、芸者は顔が隠れる鳥追い傘をかぶらせ、幫間に

るだろう。破壊工作や暗殺が必要になってくる場面さえあるかもしれない。

昔、陸軍中野学校がやっていたような活動を、今でもCIA・MI6・GLUなどは職務として行っている。日本だけが手を汚さずに旨い料理を食べようとする体制が、果たして許されるのかどうか考えておきたい。

は面白おかしく賑やかに踊らせた。

十三日には迎え火を焚いて、初盆の家の前で亡き人の霊が迷わず帰ってこられるように踊った。十五日には、三日間実家に帰っていた霊が迷わずあの世に帰れるよう、藍屋浜まで一列に並んで踊りながら導いた。

戦後のGHQによる宗教禁止令で、阿波踊りは中止となったが、先祖の霊を迎えたい人々が徳島新聞を動かし、徳島県からGHQに現在の様式の阿波踊りに変更するので許可を出すよう働きかけた。

「盆踊りは先祖の霊と共にある」ものなのだ。

地方事務局活動報告

■関西事務局

◇七月十四日(火)

・尼崎市「タイポハウス軸索社」にて、むすびの集ひ勉強会を開催。資料は「百二十六代御歴代天皇陛下御名」、綱淵謙錠著「斬」より武士の自刃と介錯について、ほか。阿部一雄顧問ほか四名が出席。

残暑お見舞い

申し上げます

